

Economic Indicators

発表日:2022年7月21日(木)

貿易統計(2022年6月)

～大幅な貿易赤字が続く。先行きも輸出の下押し圧力は強い～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量			
				輸出金額	輸入金額								
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	アメリカ	EU	アジア	前年比	アメリカ	EU	アジア
21年	6月	3,694	▲1,566	48.6	32.7	37.3	79.7	43.3	26.2	8.2	9.0	26.9	8.8
	7月	4,345	▲393	37.0	28.1	25.2	19.4	38.4	20.4	1.9	2.2	▲0.6	4.6
	8月	▲6,534	▲3,231	26.2	44.7	13.8	13.2	29.2	11.1	14.4	12.8	28.2	13.2
	9月	▲6,369	▲5,849	13.0	38.4	3.3	▲9.8	15.3	8.9	7.5	17.0	6.1	6.7
	10月	▲750	▲3,862	9.4	26.8	▲2.6	▲8.2	5.2	▲0.1	▲3.0	2.0	2.3	▲4.2
	11月	▲9,569	▲5,075	20.5	43.8	4.7	▲2.8	10.8	5.4	6.0	17.1	24.2	2.3
	12月	▲5,889	▲4,385	17.5	41.2	2.1	6.7	3.4	▲0.5	1.0	8.7	5.1	1.0
22年	1月	▲21,994	▲8,846	9.6	38.8	▲4.1	▲1.0	9.7	▲10.5	4.8	4.8	21.0	3.9
	2月	▲6,772	▲10,379	19.1	34.2	2.8	5.0	2.1	6.1	▲0.8	6.1	12.8	▲5.4
	3月	▲4,240	▲9,447	14.7	31.4	▲1.4	11.7	7.6	▲7.2	0.0	▲2.1	2.7	▲0.3
	4月	▲8,538	▲15,601	12.5	28.4	▲4.5	7.9	6.7	▲8.1	▲8.9	▲10.1	5.2	▲15.6
	5月	▲23,858	▲18,886	15.8	48.9	▲3.5	▲1.2	▲2.0	▲4.2	4.7	▲1.7	6.5	3.1
	6月	▲13,838	▲19,289	19.4	46.1	▲1.5	▲1.6	6.6	▲2.3	1.3	▲1.8	▲6.6	2.1

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

○貿易赤字(季節調整値)の拡大が続く

財務省より発表された6月の貿易統計によると、貿易収支は▲13,838億円の赤字(コンセンサス:▲15,097億円、レンジ:▲20,600億円～▲11,871億円)となった。輸出金額は前年比+19.4%(コンセンサス:+17.2%、レンジ:+13.4%～+22.0%)、輸入金額は同+46.1%(コンセンサス:+46.3%、レンジ:+40.0%～+51.0%)となった。輸出が前年比での伸びを高めたが(5月:前年比+15.8%⇒6月:同+19.4%)、原油高や円安を背景に輸入の大幅な上昇が続き、貿易収支は11カ月連続の赤字となった。

6月は中国の都市封鎖の解除により中国向け輸出に底入れが見られ、中国向け輸出は金額ベースで前年比+8.3%(4月:同▲5.9%、5月:同▲0.2%)とプラスに転じた。もっとも、数量ベースでは前年比▲14.5%(4月:同▲22.6%、5月:同▲17.6%)となっており、減少幅は縮小しているものの回復ペースは鈍い。また、輸出全体では、主力の自動車輸出の低迷が続いていることで頭の重たい展開が続いている。自動車輸出は、部品供給網の混乱から国内生産が下振れたことを受けて低迷が続いており、数量ベースで見ると前年比▲10.1%(5月:同▲16.6%)と、6カ月連続で減少となった。

輸入については、ウクライナ情勢の悪化で一段と高騰している原油価格に円安も手伝って、高い伸びが続いている。

○4-6月期の実質輸出は前期比マイナスに

為替等の物価変動の影響を除いた6月の実質輸出は、前月比▲0.6%(4月:同+3.4%、実質化・季

節調整は第一生命経済研究所試算)となった。地域別に見ると、米国向けが前月比▲0.3% (4月:同+0.5%)、EU向けが同+2.0% (5月:同▲1.4%)、アジア向けが同▲1.5% (4月:同+6.3%)、アジア向けのうち中国向けが同+2.7% (4月:同+5.4%)となった。

また、四半期計でみると、4-6月期の実質輸出は前期比▲0.8%と、3四半期ぶりにマイナスに転じた。地域別に見ると、米国向けが前期比▲2.9%、EU向けが同+2.0%、アジア向けが同+0.2%、アジア向けのうち中国向けが同▲9.8%となった。

中国向け輸出は、6月は中国国内の都市封鎖が解除されたことで、一般機械、電気機器を中心2カ月連続のプラスとなり持ち直している。もっとも、4月に前月比▲11.3%と大きく落ち込んだ後の回復としては緩慢だ。四半期計でみると、中国向け輸出は4-6月期は前期比▲9.8%となり、輸出全体にブレーキをかける結果となった。

米国向け輸出の4-6月期は前期比▲2.9%と、3四半期ぶりのマイナスとなった。米国向け輸出は、昨年夏場の供給網の混乱で自動車輸出が大きく落ち込んだ21年7-9月期以降、21年10-12月が前期比+1.9%、22年1-3月期が同+3.2%と堅調な動きが続いていた。4-6月期は、自動車生産の下振れで輸送用機器の低迷が続いたこと(前期比▲5.0%)に加えて、これまで米国向け輸出をけん引してきた電気機器が前期比▲8.5%と大きく減速した。

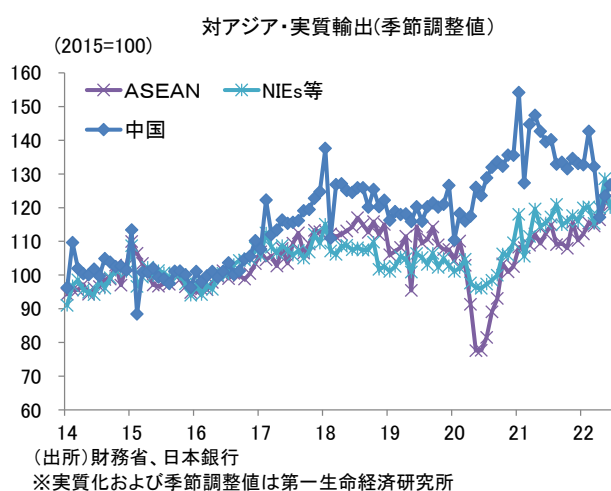
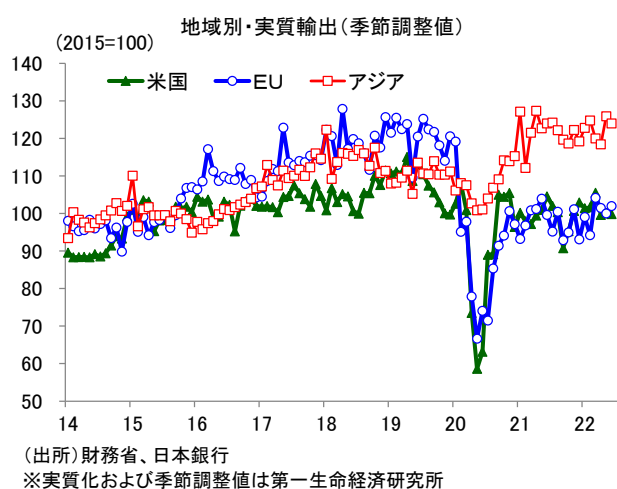
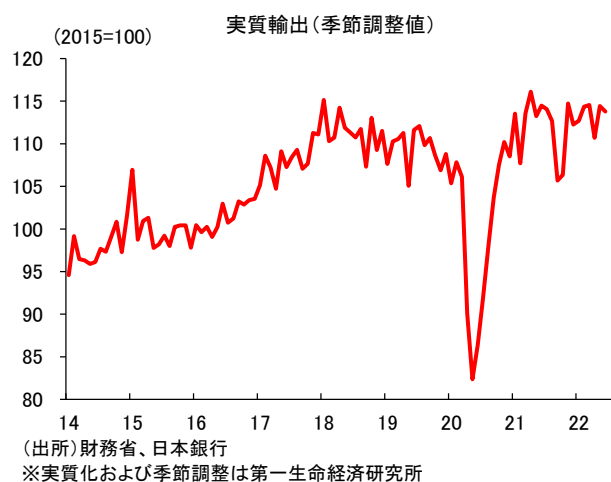
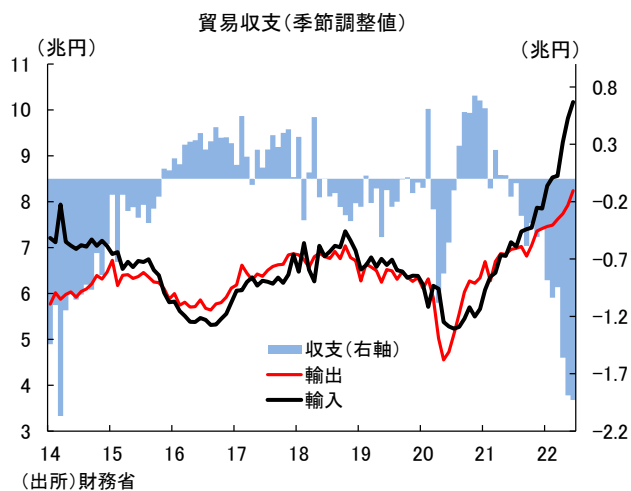
○先行きも高水準での貿易赤字が続く見込み

先行きについても、貿易収支(季節調整値)は高水準での赤字が続くとみる。

輸出は、下押し圧力が強い状況が続く。中国向け輸出は、中国国内の都市封鎖の解除により今後も持ち直しが続くものの、ゼロ・コロナ政策に対する警戒感や、供給網の混乱がすぐに解消されないことで、回復ペースは緩慢なものに留まるとみる。加えて、急速な金融引き締めやウクライナ情勢の影響を受ける米国、欧州の景気後退懸念が強まっており、輸出が下押しされる可能性が高い。

一方、輸入については引き続き高い伸びが続くだろう。当面は、原油の供給不足が強く意識される中で原油価格(ドバイ)は100ドル付近での高止まりが続くとみられ、輸入物価も高止まりが続くとみられる。もっとも、足元では、欧米諸国を中心とした世界経済の減速懸念の強まりから、原油価格は下振れがみられており、先行きは不透明感が強まっている点に注意が必要だ。

輸入が輸出を上回る展開が今後も続くことで、今後も高水準での貿易赤字が続くだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。